

■今月の特選句

2013年7月号

短夜を走るラジオの深夜便

藤森荘吉

時刻は午前三時を回りました。先を急ぎましょうとアンカーマン。話題満載だった荷台も軽くなって、曲は、夜霧の第二国道です。

端居して人生すでにロスタイム

小林英昭

ロスタイムは、ゲーム中断でカウントしない時間のことですが、この場合はゲーム終了で安穩の至福のひと時。ロスで蟹食ったロスタイムを思い出しつつ。

マネキンも一枚脱ぎし薄暑かな

渡辺さだを

「マネキンも一枚羽織る夜寒かな」「マネキンの重ね着をする寒夜かな」「マネキンの草臥れ果ててスッポンポン」なんていうのもね。

枝振りの良し悪し問はぬ若葉風

秋月裕子

「参道を開取が行く若葉風」、「夏風邪のひとつにあらむ若葉風」、「枝ぶりによつてはつむじ若葉風」なんていうのもね。

ユニクロが又ユニクロに更衣

都吐夢

「ユニクロを裏返したのか更衣」「色黒が入浴すればユニクロよ」「ユニクロと言ひユニシロとは言はず」「ユニクロに宣伝料をもらいたい」。

腹の子のはみだしてゐる日傘かな

下嶋四万歩

「胎内日焼心配となる一句かな」。まあそんなことはないでしょう。「おそろくは双子だ日傘はみ出すは」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- 株屋のみ太り給いて五月尽
・・・世渡り下手で高値で買ったか
丸山紘一
- 献盃のビールに遺影喉鳴らし
・・・ビールに替えて渋茶にするか
有吉堅二
- 暇人に遊ばれてゐる団扇かな
・・・美人画団扇ぼろぼろとなる
井口夏子
- 踊の輪時計まはりに恋育つ
・・・逆まはりして恋の消滅
山本 賜
- 春塵を拭ひて本音読めるなら
・・・本音を読めぬままに添ひ遂げ
三橋百笑
- 細々の暮しのはずが夏太り
・・・財布は依然激瘦せのまま
三塚不二
- 大の字の昼寝姿の小となる
・・・寝返り打てば大に復すか
柳 紅生
- 毎日が父の日だった頑固爺
・・・母の苦勞を嫁にさせるか
森 要
- 何の種西瓜かな苦勞の種か
・・・種飛ばしまで大苦勞して
門屋 定
- 早乙女の募集年齢不詳なり
・・・応募したのが年齢不詳
高田敏男

空豆や莢をビニールコーティング
・・・西瓜は縞で偽装工作

日根野聖子

めんだうな国となりて豆御飯
・・・お人好しなるニッポン人は

原田 暉

引っ込みのつかず地虫の穴を出づ
・・・虫にもありぬ気弱な奴は

横山喜三郎

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 老いし身の血を騒がせる三社祭
お節介焼かれストレス髪洗う
姑とコラボレーション柏餅 | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 鰓開く腹を見せての夏の鯉
亀の子や四方に向かいて櫓組む
ガールらもこぞりて行くや山開き | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 涙流してすつきりしたり花は葉に
川柳(かはやぎ)の裾をすいすいつばくらめ | 秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | 花冷えの古刹のトイレ長き列
天に昇り損ねて龍の天井画
黒穂てふ目立ちたがり屋かもしれず | 麻生やよひ
麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 | 汗ばんだ靴下まるめ投げてみる
片陰にひっそり消えてゆく二人
タンクトップお行儀などと言わせない | 足立淑子
足立淑子
足立淑子 |
| 【佳作】 | 高砂や汗の祝辞に舌もつれ
夕立や携帯電話の急ぎ足 | 有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 | 黄金虫いやな嘴逃げ切れず
蟬の目の天を睨んで声高し
葬儀社や笑い声して蝉しぐれ | 栗倉健二
栗倉健二
栗倉健二 |
| 【佳作】 | 雷神は何より臍を好みけり
蜜豆や別れ話かもつれたる
父祖の地を売って蚯蚓に鳴かれけり | 飯塚ひろし
飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 嫌われるだけに生まれし油虫
かき氷お漏らしほどの地図残し | 井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | 混浴の猿をうらやむ露天風呂
連休明け信濃は鳥獣戯画の里 | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 | うたた寝を止める気起きぬ半夏雨
素麺しか食えぬと言ひて大どんぶり | 石川節子
石川節子 |
| 【佳作】 | 良薬は昼寝を医者の方箋
河童忌や鼻の穴から胃をのぞく
寺男すずしい顔で毛虫焼く | 伊地知寛
伊地知寛
伊地知寛 |

- | | | |
|------|---|----------------------------|
| 【佳作】 | やーねーと屋根より低い鯉幟
ラベンダーベランダに置きややこしや
カーネーション五月の第二月曜日 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | リフォームをせしは御夫婦燕の巢
夏草や隣はとなり内はうち
子供の日オレオレ電話かと思ふ | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 | 燕の巢庇借りたる焼き鳥屋
薔薇活くる沈思黙考トイレ中
梅雨空や降るか降らぬか決めてくれ | 井野 ひろみ
井野 ひろみ
井野 ひろみ |
| 【佳作】 | 大なめくじ所在を隠すすべもなく
角出せとせがまれてゐる蝸牛
紫陽花の色の始まる週末よ | 今城夏枝
今城夏枝
今城夏枝 |
| 【佳作】 | 妻の風邪悔い改めておさんどん
道草を食いて草もち食い損ね
石鹼玉吹けば吹くだけ出る目まい | 入江澄泉
入江澄泉
入江澄泉 |
| 【佳作】 | 三毛猫の仕事よ金魚とにらめつこ
弁当の筍残されべそをかか
美白肌日焼の肌と比べみる | 上山美穂
上山美穂
上山美穂 |
| 【佳作】 | 石佛のみんな猫背や灸花
連れ添いて六十五年蓼の虫
交番は何時も留守なり落し文 | 氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一 |
| 【佳作】 | 父の日やまだ齧らるる脛のあり
やることのなくて草笛吹いてをり
三尺寝覚めて周りに誰もゐず | 越前春生
越前春生
越前春生 |
| 【佳作】 | 睨みつけ睨み返して五月場所
梅雨晴間ビニール傘の腑甲斐なく
空梅雨や亀裂の多き日々となり | 奥脇弘久
奥脇弘久
奥脇弘久 |
| 【佳作】 | 心太未練の尻の小突かれし
毒貝と承知で漁る潮干潟
夕薄暑ひたひの光る八木健師 | 笠 政人
笠 政人
笠 政人 |
| 【佳作】 | 稲田みな整然として峠村
夕闇の庭十葉に案内され
この梅雨を田舎じや長瀬と言つたつけ | 加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子 |

	いまさらと言ふな節食更衣 週刊誌水着眩しきとき来る	加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	夢に出し乳房はどなた聖五月	加藤 賢
【佳作】	鳴くならば愚陀佛庵跡ホトギス 五月晴れ古希祝いメール返事なし	門屋 定 門屋 定
【佳作】	風を呑み精をつけたり鯉のぼり こと無きを好まざる人まむし酒 けだるげにページ繰らるる走り梅雨	金澤 健 金澤 健 金澤 健
【佳作】	小判草摘んで束ねてこの軽さ 大仏も連休疲れ青嵐 手をつなぎ双子のやうな鳴子百合	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	みじか夜の頭にのこる昨夜の酒 六月やつついて急かす親離れ 夕顔や一夜で揺らぐ自信の句	菅野あたる 菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	花粉症まつ毛は重くなりけり 青蛙右目左目見合わせる 揚げ雲雀我は墓穴を掘りにけり	久我正明 久我正明 久我正明
【佳作】	仏法僧げっけけけと宣はる メンデルの法則はいぎ豆の花 落とし文謎を解かむと解きけり	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	朝歩きよりどり「緑」山笑ふ 「らしい」とは逃げ道らしい梅雨宣言	黒田忠一 黒田忠一
【佳作】	なめくじの夜遊びの跡長々と 青蛙背負うた子蛙青蛙 膝小僧少し出してみて更衣	小泉花子 小泉花子 小泉花子
【佳作】	大奥に不穏なにほひ冷蔵庫 づかづかと入るから西日嫌はるる	小林英昭 小林英昭
【佳作】	過疎すすみ「山美しく人貧し」 生も死も時を選ばずふいに来る この空を飲み込むぐらいに息を吸ふ	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
【佳作】	母の日や花にうずまる妻を撮る 父の日や何事もなく暮れんとす	酒井鹿洋 酒井鹿洋

	携帯てふ蛇穴に入る人の波	酒井鹿洋
【佳作】	幼な友プレーの腕前すごくない 洗濯機異物混入急がんよ あなたより飛んで来た種花盛り	佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	鶉の声して桜桃既になし 紫の鉄線桃の木に咲けり こどもの日母子で可愛さ競ひをり	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	あめんぼが脳かき廻すあなただけ 汗滲む鏡に映るかくしごと 人生に梅雨どきありて味の増し	柴田止揚 柴田止揚 柴田止揚
【佳作】	目配せは妻と合意の蠅叩 水中花貴方はアンチエイジング	下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	おしゃべりな雲雀に釣られ暮れぬ空 鯉のぼり直ぐ絡みつ癖をもち 山菜取り山ガールなど目もくれず	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	老いてより昼寝三昧して不眠 父の日の父はいつもの雲隠れ 腹見せてよりごきぶりの真骨頂	白井道義 白井道義 白井道義
【佳作】	大吉の大と吉は犬猿の仲 茶碗の音ドソソの時もあるんだよ 時に暴言それは生き抜くため	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	活動に汗ばむシャツを洗濯に コンビニの冷しめん食べ参考書 センターは年下みたい新茶飲む	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	象徴に万歳叫ぶ民主主義 従属も誇りと変えて主権の日 反省は未来の邪魔と懐古趣味	泰田成人 泰田成人 泰田成人
【佳作】	減量やまだまだ駄目とハンモック 父の日は二番煎じと思うなり	高田敏男 高田敏男
【佳作】	浴衣自慢病院内の昼下がり 日常はさして変らず七変化 墓のごとき怪優ひそと逝きにけり	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 火だるまとなりタタキ用の初鯉
タタキてふ鯉の切り身青光る
粗粒の塩で化粧す初鯉 | 高橋マキコ
高橋マキコ
高橋マキコ |
| 【佳作】 | 己が影法師踏みつける炎天下
水漬で量る今日の花粉の量
ゴールは死蚯蚓鳴かうが鳴くまいが | 高橋素子
高橋素子
高橋素子 |
| 【佳作】 | ローズてふ名にときめくや薔薇の花
踏まれるぞ走って逃げよなめくじり
ひでり梅雨伸び疲れたる草の蔓 | 田所國威
田所國威
田所國威 |
| 【佳作】 | 寝てるやら起きているやら昼寝覚
ひとつだけつままで逃げし蛇いちご
水を縫ふ糸とんぼの影のあり | 田中章子
田中章子
田中章子 |
| 【佳作】 | あやめさんエロスそのものなのですか
銭湯に描かれたるのあやめかな
飛田新地のあやめ咲くなりけり | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | 五月富士歓声挙がる新幹線
レヂ前で小銭を探す酔芙蓉
日焼顔丈夫さうねとのみ言はれ | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 | スカートをしつかり押へ浮いてこい
風鈴のしつこい風に音を上ぐる
蚤虱絶滅危惧種申請中 | 田村米生
田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | 若葉燃え野球ファンも燃えあがる
皮付きの筍もらい手に余す
梅雨時は洗濯物のシャンデリア | 津田このみ
津田このみ
津田このみ |
| 【佳作】 | 驟雨来るルーペで覗く驟の文字
六月の神父はホテルマンめきて | 都吐夢
都吐夢 |
| 【佳作】 | 父の日や昼より葷酒憚らず
いい齢をしてなど言はぬ花柘榴
切り捨てて頭は食はぬ初鯉 | 飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝 |
| 【佳作】 | 犬の仔に舐められてゐる帰省の子
金魚玉穴のあくほど飽かず見る
天道虫騙しは死せる振りをして | 永島董玉
永島董玉
永島董玉 |
| | しょぼくれた男は御免ビアガーデン | 西をさむ |

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 水底を泣き焦れたる水馬
ぼうたんを真似て女のへたり込む | 西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 | 麦秋に澄ませば懐かし笛の声
衣更え見透かされたか涼し風
方言も暑さも一流「うづれるねや！」 | 花岡直樹
花岡直樹
花岡直樹 |
| 【佳作】 | 父の日の父の間違ふわが名前
日当たりに夢に驚く子ねこかな | 原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 | 新宿の地下は迷路よ亀鳴けり
蝙蝠や鼠か鳥かはた蝶か
空梅雨や雷神の臍曲がりみて | ひがし愛
ひがし愛
ひがし愛 |
| 【佳作】 | 老鶯の法法華経と竹林寺
サーフィン男つ振りを挙げにけり
サーファーの繰り出す浜に婆一人 | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| 【佳作】 | リビングの干場となりぬ入梅かな
十二分の六は半分六月は | 日根野聖子
日根野聖子 |
| 【佳作】 | 絶え間なく防空壕をつくる蟻
浪漫は成人映画大西日
アンテナのように髪の毛日雷 | 広瀬雅幸
広瀬雅幸
広瀬雅幸 |
| 【佳作】 | 魚偏のコップの字のネタ鮫の舌
ブランデー瓶に酔ふ貌水中花
用意ドン撞き井の心太 | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | 手拭の煙草扇子に詰めて吸ふ
ゴム長とゴム手袋の田植かな | 藤森荘吉
藤森荘吉 |
| 【佳作】 | サラダのごとし新緑のお城山
飛行機や五月の空を泳ぐかに
ツリーハウスのカフェの緑に浸りある | 藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 時の日や十日遅れの花時計
海鞆の水浴びて開くも男なり
新じやがやバターの値上げ言ふ妻よ | 前 九義
前 九義
前 九義 |
| 【佳作】 | 庭若葉かつて捨てたるさんきらい
ほうたるぶくろ雑草として刈り取られ
活けにけり白洲正子流若竹を | 松井寿子
松井寿子
松井寿子 |

	時の日や大様とせっかち夫婦来る 大足より涙ぞ水虫の大看板	松井まさし 松井まさし 松井まさし
【佳作】	ステテコで走る異国ホテルの廊下かな	
	石橋を叩いてにげる鹿の子かな どん底に底があるとは梅雨しらず	松尾軍治 松尾軍治 松尾軍治
【佳作】	雨蛙天気つづきで青くなり	
	小満を知らぬ馬脚の句会かな 万緑も恨みとなりぬ老いの庭	丸山絃一 丸山絃一
【佳作】	遠雷に慌て食い溜めバーベキュー 透け透けのドレスに点の眼かな	三塚不二 三塚不二
	つひに富士空にとけて初夏の浜 楠の木の更衣中なりしきり散る	三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	誕生日杜鵑花(さつき)刷りこむ祝ひ状 御手水の音も水琴としたたれり 佛前の経巻の嵩あまがへる	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
	蚕豆の黄昏顔に茹で上がる 万緑や二足歩行を覚えし日 写真薺び小町の異名ほしいまま	百千草 百千草 百千草
【佳作】	燕の子頭を隠す丸い口 蚊帳の中じっとテレビを見る私 時の日やたらだら過ぎる 丸一日	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
	這えば立て立てば抱いてといいな春 大阪に慰安夫ならぬ人独り	森 要 森 要
【佳作】	挨拶やまず梅雨入のことにふれ 金ピカの衣裳をつけて屑金魚 山あぢさゐの素朴を愛でて歩き出す	八木 健 八木 健 八木 健
	美少年いはれし頃の麦ばたけ 大泉小泉沢に清水かな 冷房はどなたに照準いさ知らず	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	待ちに待つ噴水もまた怒り肩 平家方よりも源氏を破る紙魚	柳 紅生 柳 紅生
	妻用事四ツ葉のクローバー爪楊枝	柳澤京子

	葉切蟻人間様を見下して	柳澤京子
【佳作】	藤棚の降られてうれし垂れ雨 競ふほどにつつじ紅白睦まじく 餅草に反まり草餅生まれ出づ	山下正純 山下正純 山下正純
【佳作】	その花の重さうにして薔薇咲けり 法要の寺とり囲む麦の秋 水分補給され蘇り七変化	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】	言語道断つつじ若葉は道せばめ 芝櫻這ひつくばれば匂ひけり	山本 賜 山本 賜
【佳作】	軒のなき家にとまどふ燕かな 古池やまだ飛び込めず初蛙	横山喜三郎 横山喜三郎
【佳作】	若葉寒また出して着るチャンチャンコ 入梅や株価はいよよ乱高下	渡辺さだを 渡辺さだを